

分野	51	脱炭素	通番 99
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標		省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	地球温暖化対策 (COOL CHOICE)推進事業		会計	款	項	8,392,110	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、気候変動の「緩和策」の両輪とされる、「省エネ」の推進と「再エネ」の普及を一層進めます。そのため、市民が行うCOOL CHOICEへの経済的支援を行うとともに、事業者等との連携を強化し、各主体一丸となって脱炭素化を進めていきます。また、多少の気温上昇が避けられないとされる未来の市民の暮らしを守るため、啓発をはじめとして「適応策」を進めます。							

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	COOL CHOICEの実践を対象とする補助金の利用件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	572 (令和2年10月末)	目標	587	602	617	632	647
		実績	598	676	792	870	
<p>・広く啓発するため、「ホテル観賞のタペ」において、ホテルを模した発電実験器を設置し、訪れた人に楽しみながら省エネについて学んでいただきました。</p> <p>・COOL CHOICE実践補助金について、補正予算を活用し、自家消費型の再エネ導入促進のため、国の固定価格買取制度「FIT」を活用しない「非FIT」の案件に対して補助額を拡充するなどの制度改正を行いました。</p> <p>・市とたい肥化可能な生地を生産する事業者との間で締結した協定に共感した地元事業者から、同生地で作られたタオルを寄贈いただき、婚姻届を提出された方に配付・啓発する取組を行いました。</p>						<p>ホテルを模した発電実験器</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
		達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<p>温室効果ガス排出量は、経済活動のほか、電気の排出係数(発電するのにどれだけのCO2を排出するか。)に大きく左右されるため、電気の排出係数の増減に近い動きとなっています。</p> <p>・COOL CHOICE実践補助金の対象としている設備は、将来にわたってCO<sub>2</sub>排出を抑制する効果をもたらします。</p> <p>・各補助メニューの交付実績は、薪ストーブの設置補助1件(100,000円)、住宅窓の断熱改修補助12件(556,000円)、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助35件(4,723,000円)、次世代自動車の導入補助23件(2,300,000円)、家庭用燃料電池システムの設置補助7件(350,000円)でした。</p>
	課題等	<p>・令和6年度の補正予算で、太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置補助の「非FIT」の案件に対し、補助額を拡充しましたが、年度途中だったこともあり、令和6年度は申請がありませんでした。さらに、省エネ推進の観点から、太陽光発電設備と蓄電設備に、高効率給湯機器かコージェネレーションシステムを加えた3点同時設置をする場合の補助も拡充しましたが、令和6年度は申請がありませんでした。さらなる制度の周知が必要です。</p>		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>引き続き広く温暖化対策の啓発を行うとともに、COOL CHOICE実践補助金の制度周知に努め、事業者とも連携した取組を進めます。</p> <p>・省エネ推進の観点から、中小事業者への照明器具のLED化に伴う経費支援事業を行います。</p>

分野	51	脱炭素	通番 100
施策	511	持続可能なまちづくり	
5年後の目標	省エネルギー、再生可能エネルギーの普及など、脱炭素社会への取り組みが進み、環境への負荷がさらに低減している。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	公共空間のゼロカーボン化推進		会計	款	項	—	環境政策室
			—	—	—		
事業の概要							
<p>省エネ仕様への更新や再生可能エネルギーの導入を積極的に進め、施設の特性を踏まえながら、施設で使う電気のゼロカーボン化を進めるとともに、ZEBに関しても、計画段階から実現可能性を検討し、事業を進めていきます。ZEBでない場合においても、環境性能に関する評価を持つ指標を意識するほか、雨水や井戸水、木材の利用など、総合的な環境性能に配慮した整備を行います。</p>							

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	ゼロカーボン化に類する公共空間の累積数 ※ゼロカーボン化に類する公共空間には、ZEB READY・再エネ電気の導入施設等を含む。				単位	施設
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0(令和3年度)	目標	/		1	2	2
		実績	/		1	2	
<p>・老人福祉センター「竹寿苑」の老朽化に伴う移転再整備工事が完了し、令和6年11月に「健幸すぽっとのびのび苑」を供用開始しました。同施設は、本市公共施設では初めての、基準となるエネルギー使用量より50%以上の省エネを達成したZEB READY建築物です。          ・地元企業の協力を得て設置した太陽光パネルと蓄電池により、JR長岡京駅東口駅前広場の電力を全て再生可能エネルギーで賄う取組を行いました。夜間等に購入する電力のオフセット(CO2排出を相殺すること)は、環境価値である非化石証書を日中の売電量の範囲で購入することで行っています。</p>						<p>健幸すぽっとのびのび苑</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
		—		—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三期環境基本計画に掲げる、ZEBの検討の結果、本市公共施設で最初となるZEB READY建築物を実現することができました。</li> <li>・事業者との連携により、JR長岡京駅東口駅前広場におけるゼロカーボン化を達成することができました。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光パネル設置などの再エネを生み出す取組が必要ですが、既存公共施設の大半は、設置から年数が経過しており、追加設置が難しい状況です。よって、施設の新築等の際には、再エネの導入を積極的に進めるとともに、エネルギー消費量が少ない省エネ性能の高い整備が重要です。</li> </ul>				

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、公共施設を新たに整備する際には、第三期環境基本計画に基づき、施設の特性を踏まえつつ、再エネの導入を積極的に進めるとともに、計画段階からZEBの実現可能性を検討し、事業を進めます。</li> <li>・長岡第三小学校の建て替えや西山公園グリーンハウスの改修では、ZEB READYの認証取得を視野に整備を進めます。</li> <li>・上記と並行し、再エネ価値を持つ非化石証書の購入といった、電力をCO<sub>2</sub>フリーにする手法の検討も行います。</li> </ul>

分野	52	資源循環	通番 101
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標	市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいつそう進んでいる。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目			決算額(円)	担当課	
	一般廃棄物等の適正処理及び 減量化啓発事業	会計	款	項	目	753,650,080	環境業務課
		一般	4	2	1		
事業の概要							
長岡京市一般廃棄物処理基本計画に基づき、生ごみ、紙ごみ、プラスチックごみを中心に更なるごみの減量とリサイクル推進、食品ロス削減のための啓発活動を実施します。また、保育所や小学校への出前授業を通して、資源や食べ物を大切にすることを育てます。家庭系一般廃棄物においては、指定ごみ袋制度を継続し、適正排出の促進やごみの排出自体を抑える意識を高め、ごみの減量を進めていきます。また、事業系一般廃棄物においては、事業系ごみ減量のしおり、減量計画書の提出、展開検査を通じた啓発等により、ごみの減量を進めていきます。							

令和6年度の取組							
D (取組)	指標①	1人1日当たり収集ごみ量(家庭系)				単位	g/人・日
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	535.4 (令和元年度)	目標	524.3	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による
		実績	491.4				
	指標①	【家庭系】1人1日当たり収集ごみ量(資源ごみを除く)				単位	g/人・日
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	456.5 (令和元年度)	目標		452.3	448.1	443.9	439.7
		実績		393.5	374.7	367.9	
	指標②	1日当たり搬入ごみ量(事業系)				単位	t/日
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
17.7 (令和元年度)	目標	13.7	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	次期一般廃棄物処理 基本計画の数値による	
	実績	17.7					
指標②	【事業系】1日当たり搬入ごみ量(市外からの搬入を除く)				単位	t/日	
現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
16.7 (令和元年度)	目標		16.5	16.3	16.2	16.1	
	実績		16.2	15.7	15.7		
<p>・不要品一括査定サービス「おいくら」及び地域の情報サイト「ジモティー」と連携し、引き続きリユースの啓発を行いました。</p> <p>・リユースショップ実行委員会によるリユースショップを1回実施し、790品の再利用につながりました。</p> <p>・保育所4園、小学校10校、中学校4校で給食調理くずリサイクル事業を実施しました。</p> <p>・食品ロス削減の取組の推進のため、市役所ロビーにてフードバンク長岡京によるフードドライブ(食品寄付活動)を12回行い、982個の寄付を受けました。</p> <p>・保育所4園、小学校9校でごみに関する出前授業を行い、食品ロス削減やごみの減量、適正排出について啓発を行いました。</p> <p>※令和3年度の目標値は平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画(以下「計画」という。)による。令和4年度以降の目標値は令和4年策定の計画による。</p>							
					 <p>小学校での出前授業</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
	達成度合	ごみの総量	令和3年2月から指定ごみ袋制度を導入したことにより、令和3年度に大きく減少し、その後も減少傾向が続いています。	48
		A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<p>・令和6年度の家庭系1人1日当たり収集ごみ量(資源ごみを除く)は367.9g/人・日となり、目標より収集量を減らすことができました。</p> <p>・令和6年度の事業系1日当たり搬入ごみ量(市外からの搬入を除く)は15.7t/日となり、目標より搬入量を減らすことができました。</p>	
課題等	<p>・家庭からの1人1日当たりの収集ごみ量は減少していますが、増加に転じないよう、これまで以上に啓発を行う必要があります。また、長岡京市の人口は増加傾向が続いているため、家庭からの収集ごみ量が増加する可能性があります。</p> <p>・事業所からの搬入ごみ量は目標を達成していますが、経済活動に応じて増減する可能性があるため、継続して啓発が必要です。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標(減量化、再資源化、最終処分量削減)に向けて、3つのコンセプト(減らす、育てる、考える)に基づき、ごみ減量施策を実施します。</li> <li>・ごみの適正排出を進めるため、多様な方法でごみ情報を発信します。</li> <li>・リユース促進のために、引き続き民間事業者と連携し周知と啓発を続けます。</li> <li>・食品ロス削減のために市民や事業者向けにフードドライブへの協力をお願いするとともに、フードバンク長岡京の活動を支援します。</li> <li>・事業系ごみ減量のしおりやチラシを活用し、ごみ減量と適正排出の啓発を継続します。</li> </ul>

分野	52	資源循環	通番 102
施策	521	ごみの減量と適正処理	
5年後の目標	市民と行政の一体となった取り組みにより、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルがいつそう進んでいる。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	分別によるリサイクル推進事業		会計	款	項	目	8,627,194	環境業務課
			一般	4	1	8		
事業の概要								
資源の有効活用と減量意識の高揚を図るためには市民参加型のごみ減量施策が重要であるため、自治会や各種団体など地域レベルの活動に対する支援を行います。また、古紙類のリサイクルを推進するために、市民にとって利便性の高い拠点回収の環境整備を図ります。あわせて指定ごみ袋制度を継続し、適正排出の促進やごみの排出自体を抑える意識とリサイクル意識を高め、再生利用率の向上を目指します。								

令和6年度の取組								
D (取組)	指標	再生利用率					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	13.4(令和元年度)	目標	21	13.8	14.3	14.9	15.4	
		実績	14.8	15.2	14.9	14.6		
<ul style="list-style-type: none"> <li>古紙回収を行う団体に対して助成金交付等で団体を支援し、1,386tの古紙等の回収につながりました。さらに市役所(平日及び第3日曜日)及び中央公民館(開館日)で古紙回収ステーションを継続して開設し、196tの古紙等を回収できました。</li> <li>サントリーグループと長岡京市・向日市・大山崎町・乙訓環境衛生組合で使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」リサイクル事業を引き続き実施しました。</li> <li>適正な資源物の排出を促進するため、分別ステーションでの指導等を行いました。</li> <li>分別排出機会を増やすため、資源物の祝日収集を開始しました。</li> <li>適正排出を促進するため、小型充電式電池の拠点回収を開始しました。</li> </ul> ※令和3年度の目標値は、平成29年策定の長岡京市一般廃棄物処理基本計画(以下「計画」という。)による。令和4年度以降の目標値は令和4年策定の計画による。						 <p>中央公民館の古紙回収ステーション</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和6年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標			評価指標の傾向・トレンド	番号
	リサイクル率	ペットボトルの軽量化、新聞購読世帯の減少など、リサイクル対象物の減少もあり、リサイクル率は低下傾向にあったが、令和3年2月より家庭からの可燃ごみに指定ごみ袋制度を導入したことで、ごみの適正排出が進み、令和3年度以降上昇が続いています。			47	
	達成度合 (目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生利用率は14.6%となり、目標値を0.3ポイント下回りました。</li> <li>古紙等の回収量は前年度から6%(99t)減少し、再資源化量も前年度から2%(23t)減少しています。ごみの総量の減少率2%(337t)よりも再資源化量の減少率が大きかったため、再生利用率は低下しました。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源物を適切に排出しやすい環境の維持が必要です。</li> <li>新聞購読世帯の減少等により地域での古紙回収量は減少傾向であり、リサイクル率上昇のためには事業者への古紙等拠点回収場の周知が必要です。</li> <li>小型充電式電池や小型家電等の適正排出について周知が必要です。</li> <li>資源物として再資源化できる古紙や容器包装プラスチックなどが、可燃ごみとして排出されることがあります。</li> </ul>					

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1:計画通りに進めることが適当	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> <li>長岡京市一般廃棄物処理基本計画に定めた目標(減量化、再資源化、最終処分量削減)に向けて、3つのコンセプト(減らす、育てる、考える)に基づき、ごみ減量施策を実施していきます。</li> <li>市民及び事業者に向けて古紙等の拠点回収場所等を引き続き周知し、利用促進を行います。</li> <li>市民及び事業者に向けてごみの適正排出について引き続き啓発を行います。</li> <li>小型充電式電池及び小型家電等の回収について検討を行います。</li> </ul>

分野	53	環境共生	通番 103
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	西山における森林保全活動の推進・啓発事業		会計	款	項	1,500,000	農林振興課
			一般	6	2		
事業の概要							
西山森林整備構想に基づき、具体的な森林整備方針を定め、産官学民連携の組織である西山森林整備推進協議会と連携して、多様な主体による森林保全活動の推進と啓発を促進します。							

令和6年度の取組								
D (取組)	指標	森林ボランティア団体数					単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		23(令和元年度)	目標	23	23	23	23	23
	実績		22	23	23	23	23	
<p>・「西山森林整備構想」に基づき、西山森林整備推進協議会と連携して、京都モデルフォレスト運動による森づくりへの支援や自然環境調査、小学校で丸太切り体験を実施し自然体験学習の補助を実施しました。</p> <p>・こどもたちの環境教育の推進・充実を目的とした「西山ファミリー環境探検隊」を実施しました。木材の伐採、その材を活用した木工キットの作成を行うワークショップを実施し、木材利用の普及啓発を行いました。また、ボランティア団体の安全対策を目的としたボランティア養成講座を実施しました。</p> <p>・「西山森林整備構想」策定後10年の森林整備活動の実績及び課題を踏まえ、次期整備構想の策定作業を行いました。</p>						<p>ワークショップ</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
		西山の森林整備面積・整備率		・西山森林整備構想に基づき、今後も環境の側面や公益的な観点から西山の森林機能を維持するために、継続的に森林整備を進めています。	49
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<p>・ボランティア団体に対し継続して活動が行えるよう助言を行いました。</p> <p>・ボランティア養成講座を開催し、森林整備活動に関心を持つ人と既存の団体との関係性を構築しました。また、安全講習を実施し、森林整備の際の安全意識の向上を図りました。</p> <p>・木材伐採から利用までを体験するワークショップを開催し、木材利用の促進、普及啓発を行いました。</p>		
	課題等	<p>・西山森林整備推進協議会の活動内容や長岡京市の森林整備等をPRし、行事への参加を促すなど関心を高める必要があります。</p> <p>・会員の高齢化と後継者不足に悩んでいるボランティア団体が多いため、活動内容のPRやボランティア養成講座を実施し新規ボランティア会員を確保する必要があります。</p>			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・西山への関心を高めるため、伐採体験や木工教室等のワークショップ等を実施し、啓発を行います。</p> <p>・モデルフォレスト活動に関心のある人に情報を発信し、既存ボランティア団体の担い手不足解消につなげます。</p> <p>・既存ボランティア団体が学校等の遠足や課外活動を受け入れやすいよう、備品の貸出しや職員の派遣により、活動環境を整備します。</p>

分野	53	環境共生	通番 104
施策	531	西山の整備	
5年後の目標		市民・企業などの協働によって西山が整備され、市域の森林の3分の1以上が健全な状態で維持管理されている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	西山における森林整備推進事業		会計	款	項	18,639,330	農林振興課
			一般	6	2		
事業の概要							
西山の森林機能を維持・回復させるため、人工林の間伐や二次林の改良、拡大竹林の整備、危険木の処理を進めるとともに、京都西山再生プロジェクトにおいて生物多様性に富んだ森づくりに取り組みます。							

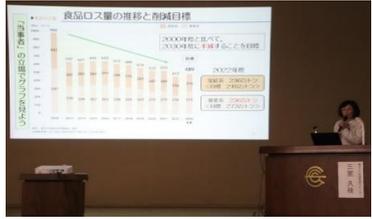
令和6年度の取組							
D (取組)	指標	西山森林整備面積(累計)				単位	ha
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	306.73 (令和元年度)	目 標	320	328	336	344	352
		実 績	320	329	337	343	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京市森林組合に業務委託を行い、森林整備を合計5.85ha実施しました。</li> <li>・人工林については、1.76haの間伐を実施し、針広混交林・二次林併せて2.40haの整備を行いました。竹林については、拡大する竹をライン状に伐採し最前線を押し戻す線的整備と点在する竹の除伐を1.21ha行うとともに、過去の線の整備地で新たに発生したタケノコ等を伐採する維持管理を実施しました。また、台風等に起因する風倒木の単木伐倒処理と面的処理を0.48ha実施しました。</li> <li>・ふるさと納税を活用し、カブトムシやオオムラサキなど多様な生き物が暮らす森を再生する「京都西山再生プロジェクト」では、昨年度に引き続き新たな植樹地を整備し、155本の新規植樹を行い合計552本になりました。</li> <li>・木材利用を促進するため、民間企業にも働きかけ、企業による市内産木材を活用したノベルティグッズの作成にいたりしました。</li> </ul>					針広混交林整備 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
			西山の森林整備面積・整備率	・西山森林整備構想に基づき、今後も環境の側面や公益的な観点から西山の森林機能を維持するために、継続的に森林整備を進めています。
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	・木材利用促進のため利用間伐を中心に森林整備を実施しました。効率的に森林整備を進め目標をほぼ達成できました。令和6年度より針葉樹と広葉樹が混在している地域を針広混交林として施業を開始しました。 ・民間企業に働きかけ、市内産木材の利用が促進されました。	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林整備で搬出した木材を公共施設や学校教材等に積極的に活用し、広く市民に西山をPRする必要があります。</li> <li>・効果的に放置竹林対策を実施できるよう、伐採時期や整備箇所の選定を専門業者と協議し、整備方法等を検討する必要があります。</li> </ul>		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林整備により災害に強い森づくりを進め、災害発生時には速やかに災害復旧をします。</li> <li>・整備計画に沿って利用間伐を実施し、木材を安定供給することで公共施設等の市内産木材の利用を推進し、民間事業者にもノベルティグッズや内装材への利用を啓発します。</li> <li>・継続的に放置竹林対策を実施し、生物多様性や森林の持つ公益的機能の向上を図ります。</li> </ul>

分野	53	環境共生	通番 105
施策	532	地域環境力の向上	
5年後の目標	“環境の都”長岡京の実現に向け行動する人の輪が広がっている。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	環境都市宣言啓発推進事業		会計	款	項	目	645,198	環境政策室
			一般	4	1	8		
事業の概要								
<p>市民・団体・事業者等それぞれの主体が、その役割と責任を認識し、多方面で協働しながら、環境にやさしいライフ・ビジネススタイルの輪を広げ、持続可能な社会をつくれます。そのため、環境に関する様々な学習会等を通じた啓発活動を実施するとともに、地域の中で環境を考える学び合いの機運を創出し、環境問題の「自分ごと化」を図ります。</p>								

令和6年度の取組								
D (取組)	指標	環境イベント・行事への参加主体数				単位	者	
	26(令和2年度)	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目 標		38	39	39	40	40
		実 績		33	39	43	44	
<p>・大阪・関西万博開催を記念し、国際的な要素も取り入れた環境フェアと農業祭を合同で開催しました。環境と関係の深い「農」と併せてPRすることで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、分野横断的な啓発を行いました。</p> <p>・市民ホールでは、「今日からできる食品ロス削減～台所からSDGs～」と題した講演会を開催し、食品ロス削減の啓発を行いました。</p> <p>・星空観察会及び探鳥会を開催し、大気汚染や光害に関する理解を深めるとともに、自然への親しみを通じて、環境保全意識の向上を図りました。</p>						<p>市民ホールでの講演会</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和6年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	番号	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・環境フェアを農業祭と合同で開催することで、地産地消による温暖化対策や地元農業振興など、縦割りの視点にとられない、分野横断的な啓発を行うことができました。</p> <p>・より多くの団体と連携することで、環境保全啓発のチャンネルを増やすことができ、「市民(団体や事業者)から市民へ」の啓発が進んでいます。</p>	—	—
	課題等	<p>・気候変動は特に注目されている環境問題ですが、長期的な変化を及ぼす問題であるため、日常生活にただちに現れる問題と比べると、「自分ごと」として捉えにくい側面があります。</p> <p>・身近な問題として捉えてもらうためには、「行政から市民へ」の啓発だけでなく、「市民から市民へ」の啓発の機会を一層確保するとともに、啓発の仕方にも工夫が必要です。</p>				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・第三期環境基本計画に基づき、様々な啓発主体と連携し、「行政から市民への啓発」だけでなく、「市民から市民への啓発」を活発化させ、環境問題を身近な「自分ごと」として捉えてもらえる機会を今後も確保していきます。</p> <p>・特に、気候変動の影響を大きく受ける若い世代の声を聞き、社会へと発信・啓発する事業の検討を行います。</p>

分野	54	都市環境	通番 106
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かされ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目			決算額(円)	担当課	
	無電柱化推進事業	会計	款	項	目	—	道路・河川課
		—	—	—	—		
事業の概要							
<p>阪急長岡天神駅周辺や景観重点地区である八条ヶ池、景観沿道軸となる天神通りとアゼリア通り、府道西京高槻線の無電柱化を府と共に推進します。</p>							

令和6年度の取組								
D (取組)	指標	無電柱化事業の進捗					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	市役所前区間の検討	市役所前区間の工事着手	市役所前区間の工事推進・完成	八条ヶ池区間の検討	八条ヶ池区間の検討	
		実績	市役所前区間の検討	市役所前区間の工事实施	市役所前区間の工事完成	八条ヶ池区間の検討		
<p>・八条ヶ池区間の無電柱化に向け、京都府へ要望と協議を行いました。          ・府道大山崎大枝線は、長岡京IC～長岡天満宮前交差点までの一部区間に電線共同溝が設置されました。</p>					 <p>八条ヶ池区間</p>			

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
			—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・府道大山崎大枝線は、一部区間に電線共同溝が設置され、事業が進捗しました。
	課題等	・無電柱化を行うにあたり、地下埋設物の移設方法やスケジュール調整が課題です。		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・八条ヶ池区間の無電柱化に向け、引き続き、京都府と協議・調整を続けていきます。 ・府道大山崎大枝線については、引き続き、無電柱化事業の早期完了を要望します。

分野	54	都市環境	通番 107
施策	541	良好な景観の保全	
5年後の目標		西山から市街地への緑の流れが活かせられ、市民や事業者とともにつくっているまちのたたずまいに、市民や訪れる人がやすらいでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	西国街道再整備事業		会計	款	項	目	18,971,700	道路・河川課
			一般	8	2	2		
事業の概要								
平成12年度より整備された西国街道北部地域は、経年劣化による石畳の破損により、市民の日常生活に支障をきたしています。また、維持管理費については、年々増大しています。よって、「長岡京市景観計画」に基づく旧街道軸で、景観に配慮した石畳の再整備を行います。								

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	北部西国街道延長(L=1050m)の整備率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	道路設計業務	10.5	41.0	70.5	100.0
		実績	道路設計業務	28.6	68.6	100.0	
<p>・北部西国街道(市道第4021号線)について、その3工事として330mの再整備を実施しました。その3工事の完成により全延長1050mの整備が完了しました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
		—	—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・再整備事業は令和7年度まで要する予定でしたが、地元の協力もあり、予定を上回る延長を施工出来たため令和6年度に完了しました。	
課題等	—				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
		—

分野	54	都市環境	通番 108
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	みんなが憩い楽しめる 魅力ある公園づくり事業		会計	款	項	54,039,000	公園緑地課
			一般	8	4		
事業の概要							
幼児から高齢者までの多様な年齢層の人たち、障がいのある人もない人も誰もが楽しみ、交流できる公園づくりに向け、西山公園第3期整備と民間と連携した長岡公園の再整備を行います。							

令和6年度の取組							
D (取組)	指標①	西山公園第3期整備計画の進捗				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	基本設計 (令和2年度)	目標	測量・実施設計	用地買収	配水池解体工事	整備工事	整備工事完了
		実績	測量・実施設計(新池護岸部分完了)	用地買収・新池護岸整備工事・実施設計	配水池解体工事・駐車場実施設計完了	広場整備工事	
	指標②	長岡公園再整備の進捗				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標			設計	整備工事完了	—
		実績			設計	整備工事	
	指標① ・西山公園配水池の解体に伴う跡地活用として、2カ年計画の1年目として広場整備工事に着手しました。 指標② ・長岡公園の再整備に向けて、整備工事に着手しました。						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
			—	—
C (評価)	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況 指標① ・広場整備工事に着手し、1年目の工程を概ね予定どおりに進めました。 指標② ・整備工事に着手しましたが、設計の遅れにより当初予定していた令和6年度内の完了が困難となり、令和7年度まで工期が延伸する見込みです。	
	課題等	指標① ・地元との合意形成を図りながら、計画的に整備を進めていく必要があります。 指標② ・工期延伸を踏まえ、進捗管理の強化と関係者との調整を的確に行う必要があります。		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	対応策等 指標① ・西山公園駐車場の整備工事を実施します。また、残る広場整備工事を計画的に実施し、令和8年度春の供用開始に向けて事業を完了させます。 指標② ・引き続き再整備工事を着実に実施し、令和7年9月のオープンに向けて事業を進めるとともに、憩い楽しめる公園となるよう指定管理者と連携を図りながら進めます。

分野	54	都市環境	通番 109
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市民協働緑化事業		会計	款	項	目	15,793,000	公園緑地課
			一般	8	4	4		
事業の概要								
公益財団法人長岡京市緑の協会と共に、みどりのサポーター制度の促進を図り、市民による公園等の緑化及び環境美化活動を進めます。								

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	みどりのサポーター活動団体数				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		100(令和元年度)	目標	106	109	112	115
	実績		110	109	106	107	
<p>・令和6年12月に「第19回みどりで笑顔のつどい」を開催し、サポーター制度発足から20年の節目にあたることから、一般参加者も募集し、69名の参加者のもとクリスマスシーズンに合わせた企画を実施しました。</p> <p>・(公財)長岡京市緑の協会は、緑の講習会を年5回、出前講座を年6回開催し、合計178名の参加がありました。</p>					<p>第19回みどりで笑顔のつどい</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
			—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・みどりのサポーターは、令和6年度末時点で107団体、1,224名の登録があり、目標は概ね達成しました。
	課題等	<p>・令和6年度については退会した団体数に比べて新規登録団体数が多数でしたが、会員の高齢化等による退会が予測され、みどりのサポーター登録人数が減少する可能性があります。</p> <p>・みどりのサポーター制度の認知度が限定的なため、PR法を検討する必要があります。</p>		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・みどりのサポーターの活動に対するモチベーションを維持するため、サポーター間の交流を深める「みどりで笑顔のつどい」の運営支援を行います。</p> <p>・みどりのサポーター制度の認知度向上と新たな担い手確保のため、引き続き、はっぴいバスへの広告掲載やホームページ等でPRを行います。さらに、広報紙の活用や公共施設へのチラシ配架、市広報板に募集チラシ掲載、駅前のデジタルサイネージを活用した広報を進め、市民への周知を図ります。</p>

分野	54	都市環境	通番 110
施策	542	都市緑化と水辺環境整備	
5年後の目標		暮らしにみどりが寄り添い、公園や水辺を市民と協働のもとで整備し、市民が憩える場が広がっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	公園施設長寿命化事業		会計	款	項	61,501,000	公園緑地課
			一般	8	4		
事業の概要							
公園施設を快適かつ安全に使っていただくため、公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した施設の更新や修繕を行います。							

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	公園の施設整備数				単位	公園
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		17(令和2年度)	目標	25	28	37	43
	実績		25	32	39	52	
<p>・中開田公園ほか12公園で長寿命化対策工事を実施しました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
		—	—	—
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中開田、八条が丘南、田内、川原、北開田第二、友岡1号、河陽が丘二丁目西、西うぐいす台北、野添南、彦林西、四ノ坪、上印田、東神足二丁目公園の長寿命化対策工事を実施しました。</li> <li>・老朽化した遊具37基を更新しました。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園施設の安全性を確保するためには、定期的な健全度調査や日常点検を実施し、その結果を踏まえて、維持管理計画の補完・修正を毎年行う必要があります。</li> <li>・地域住民や関係団体との合意形成については一定の取組を行っているものの、今後はより丁寧な対話や情報共有を重ねることが求められます。</li> </ul>			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心して快適に利用できるよう、老朽化した公園施設の改築・更新を、長寿命化計画に基づき計画的に進めます。</li> <li>・令和6年度から開始した第2期長寿命化計画に沿った効率的かつ効果的な施設整備を推進します。</li> </ul>	

分野	54	都市環境	通番 111
施策	543	生活環境の保全	
5年後の目標	大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	環境監視事業		会計	款	項	3,765,560	環境政策室
			一般	4	1		
事業の概要							
大気・水質、騒音などの状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。							

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	小畑川、小泉川の透視度:30cm以上、BOD:2mg/L以下、PH:6.5~8.5の維持状況				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
	実績	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:1.1mg/L PH:7.5 小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L PH:7.8 【R2年2月時点数値】	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L PH:7.7 小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/L以下 PH:8.0	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:0.7mg/L PH:8 小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.6mg/L PH:8.0	小畑川(井ノ内橋)透視度:30cm以上 BOD:1.2mg/L PH:7.8 小泉川(西代橋)透視度:30cm以上 BOD:0.6mg/L PH:8.1		
<ul style="list-style-type: none"> <li>大気、水質、騒音の検査を実施し環境基準と比較しました。</li> <li>地下水及び河川の調査を15か所で実施しました。</li> <li>大気調査は67か所で実施しました。</li> <li>環境騒音及び自動車騒音の調査を31か所で実施しました。</li> <li>それぞれの調査で得られた結果を国や京都府などに報告し、また関係部署とも情報共有しました。</li> </ul>						<p>小畑川</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和6年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号
		小畑川・小泉川の主要河川水質指標	小畑川上流には洛西ニュータウンがあるが、下水道がほぼ完備しており、小泉川上流は砂防工事等の影響を受ける可能性があるが、いずれも水質への影響は少ないです。	53 54
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川調査では、6河川8地点で年4回調査を行ったところ延べ242項目が基準値内でした。</li> <li>地下水の水質調査では、農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められましたが、超過した項目は、地質といった自然由来の影響で超過することがあります。農業用の水質基準は達成しました。</li> <li>大気調査は、環境基準の超過はありませんでした。</li> <li>騒音調査では、3か所で一時的に環境基準を超過していましたが、自動車騒音については道路交通法に基づく措置が必要となる要請限度は超過していませんでした。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気、水質、騒音など環境保全の分野は広範囲に及ぶため、広い視野と専門的な知見、技術を継承しながら取り組むことが必要です。</li> <li>環境基準を超過した項目がある地点では、生活環境への影響を考慮し経過観察が必要です。</li> </ul>			

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境保全のための監視を継続し、関係機関と協力しながら市民、事業者等への啓発や指導を行います。</li> <li>専門的分野に対応するため、研修により知見を深めるとともに、委託も活用しながら環境監視を行います。</li> <li>大気、水質、騒音、振動等について環境基準をもとに適切に評価を行います。</li> <li>環境基準を超過した項目、地点について京都府や関係部署にも報告し、情報共有しながら監視を継続します。</li> </ul>

分野	55	水資源	通番 112
施策	551	水資源の保全	
5年後の目標		企業・市民の理解と協力のもと、地下水の適切な利用により、良質な水資源が保全・継承されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	水道の安定供給に係る 水資源保全事業	会計	款	—	水道施設課
		項	目		
公営企業会計					
事業の概要					
地下水を将来にわたり、水道水源として利用するために、地下水を採取する井戸(取水井戸)の保全及び地下水の水質管理を適切に行います。					

令和6年度の取組							
D (取組)	指標①	取水井戸の稼働本数				単位	本
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	6	6	6	6	6
	6(令和元年度)	実績	6	6	6	6	6
		実績	6	6	6	6	6
	指標②	水道水源の水質検査(地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査)回数				単位	回/年
		年度	3	4	5	6	7
	現状 (計画策定時)	目標	12	12	12	12	12
		実績	12	12	12	12	12
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全取水井戸について職員による巡視点検を毎日(平日)行いました。</li> <li>全取水井戸について水位測定を毎月行いました。</li> <li>取水井戸の修繕(浚渫及び水中ポンプの交換)を行いました。</li> <li>全取水井戸について水質検査(地下水中の揮発性有機化合物検査及び病原菌検査)を毎月行いました。</li> </ul>					取水井戸 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
	達成度合	市内井戸における地下水水位回復状況	・全体的に回復傾向にあります。		58
		A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>取水井戸の稼働本数(6本)を維持することができました。</li> <li>取水井戸の巡視点検を毎日(平日)行うことで、設備トラブルの防止及びトラブル発生時の早期発見、即時対応により、設備保全を適切に行うことができました。</li> <li>取水井戸の水位測定を毎月行うことで、地下水の適正利用が可能となりました。</li> <li>水質検査を毎月(12回/年)行うことで、水道水源として利用するための安全性を確認することができました。(検査結果は、本市ホームページに掲載しています)</li> </ul>		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道水の安定供給に必要な揚水量の確保が必要です。</li> <li>取水施設の老朽化への対策が必要です。</li> <li>水道水源として利用するための地下水水質を維持する必要があります。</li> </ul>				

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>取水設備の安定稼働を維持するために、巡視点検を継続して行います。</li> <li>取水井戸の適正利用を維持するため、取水井戸の水位測定を毎月行います。</li> <li>水道水安定供給に必要な揚水量確保のため、取水設備の更新、浚渫、導水管調査等を行います。</li> <li>水道水源としての安全性を確認するために、定期的に水質検査を行います。</li> </ul>

分野	55	水資源	通番 113
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	低廉な水の安定供給事業	会計	款	—	上下水道総務課
		項	目		
公営企業会計					
事業の概要					
地下水と府営水道の二元水源により安全で安心な水道水を安定供給することと併せて、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。					

令和6年度の取組								
D (取組)	指標①	水道水における府営水ブレンド率				単位	%	
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	50.8(令和元年度)	実績	4月～9月	50.0	4月～5月	100.0	51.2	53.3
			10月～3月	100.0	6月～3月	51.4		
	指標②	有収率				単位	%	
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	95.0以上	
	95.85 (令和元年度)	実績		96.5	96.3	96.3	94.7	
<p>・大口使用者への府営水のみ供給をしましたが、取水量の低下により、府営水ブレンド率は53.3%となりました。</p> <p>・主要基幹管路の耐震化や計画的な更新、老朽化した配水管の布設替工事を実施しましたが、漏水の影響により有収率は94.7%と目標を下回りました。類似団体や全国平均と比較し、高い有収率を確保できています。</p>					<p>漏水修繕の様子</p> 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	<p>・取水量の低下がみられるものの、1年を通じて市民向けのブレンド率50%付近での水道水の供給ができました。</p> <p>・有収率については、計画的な管路の更新、速やかな漏水対応に係る修繕を実施したものの、目標値を下回る結果となりました。</p>	57
				課題等	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・令和7年度に導水管調査を実施します。</p> <p>・上下水道ビジョン(中間見直し改訂後)に基づき課題意識を持ち、必要に応じ見直ししながら計画に掲げる取組を進めます。</p>

分野	55	水資源	通番 114
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	水道施設の耐震化事業	会計	款	—	水道施設課
		項目	公営企業会計		
事業の概要					
<p>自然災害や経年劣化による水道施設の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に耐震化を進めます。</p>					

令和6年度の取組								
D (取組)	指標①	上水道基幹管路耐震化率				単位	%	
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	37.3	37.3	37.5	38.5	39.3	
		実績	36.0	36.5	36.6	37.2		
	34.1(令和元年度)							
	指標②	浄水施設(東第2浄水場)の耐震化率				単位	%	
		現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	0	100				
	実績	0	100					
	<p>・長岡京市上下水道ビジョン(令和2年度～11年度)に基づき、耐用年数を超過した基幹管路の耐震化工事を、神足森本地内において実施しました。</p>						<p>基幹管路</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	水道基幹管路の耐震化率	55
				<p>・平成9年度より基幹管路の耐震化に着手し、令和2年度からは長岡京市上下水道ビジョンに基づき進めています。</p> <p>・長岡京市上下水道ビジョンに基づき、耐用年数並びに重要度等を考慮して工事を実施した結果、一定の耐震化を進めることができました。</p>	
課題等	<p>・長岡京市上下水道ビジョンや新たに策定された長岡京市上下水道耐震化計画に基づき、管路の耐用年数並びに重要度、市民生活への影響が大きい箇所を優先的に選定する必要があります。</p> <p>・施工にあたり、長い期間と多額の費用が必要となることや、交通状況等を始め多くの外的制約が発生します。また、工事に対する周辺住民の理解と協力が不可欠です。</p>				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・健全な財政を維持しながら水の安定供給を図るため、長岡京市上下水道ビジョンの他、新たに策定された長岡京市上下水道耐震化計画に基づき、管路の耐用年数や重要度、市民生活への影響度が大きい箇所を優先的に選定します。</p> <p>・周辺住民への周知及び理解を図った上で、関係機関との協議を綿密に行いながら、効率的な基幹管路の更新を進めます。</p>

分野	55	水資源	通番 115
施策	552	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	鉛製給水管の取替促進事業		会計	—	水道施設課
			款		
			項		
		目			
		公営企業会計			
事業の概要					
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。					

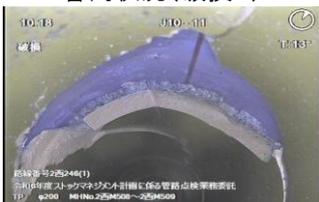
令和6年度の取組							
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	8.3	7.5	6.8	6.0	4.8
	9.0(令和元年度)	実績	6.0	5.4	4.6	4.2	
・長岡京市上下水道ビジョン(令和2年度～11年度)に基づき、市内一円における給水管取替工事、管路更新工事に伴う取替及び修繕等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。 ・工事実施にあたり、施工箇所が対象者の敷地内に及ぶ場合が多く、事前に対象者との協議を行い、円滑に施工が行えるよう調整しました。					鉛製給水管 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・市内一円の給水管取替工事の他、管路更新工事や修繕等に合わせて実施しています。 ・取替にあたり、集合住宅地や隣接箇所を選定する等効率良く進め、目標を達成しています。	—
	課題等	・事業の進捗に伴い、まとまった地区での更新はほぼ完了しているものの、対象箇所の点在化により、効率的な施工が難しくなってきたことに加え、交通状況等を始め、制約が多い場所での施工が多く、進捗が鈍化しています。 ・埋設箇所が宅地内まで及ぶこともあり、所有者の理解と協力が必要です。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・対象箇所が市内に点在しているため、他工事等とも調整を図りながら対象箇所の拡充を図るとともに、施工が難しい箇所については、綿密な工事工程の立案を行う等、確実に鉛製給水管の解消を進めます。 ・取替実施にあたり、事前に所有者や周辺住民への周知説明により理解と協力を得て取替を進めます。

分野	55	水資源	通番 116
施策	553	下水の適正処理	
5年後の目標	下水道施設・設備の更新が着実に進み、下水の適正な処理によって、公共用水域の水質が保全されている。		

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	下水道長寿命化事業	会計	款	—	下水道施設課
		項目	公営企業会計		
事業の概要					
<p>計画的かつ効率的に管路の管理を行うため、ストックマネジメント計画及び上下水道ビジョンと整合をとりながら全管路の状態を計画的に点検します。点検結果により不具合が見つかった箇所の調査を実施し、その調査結果を基に改築・更新・修繕を計画的に進めます。</p>					

令和6年度の取組							
D (取組)	指標	管きよの点検率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	5.97(令和元年度)	目標	ストックマネジメント計画の変更	13.35	17.07	20.79	24.51
		実績	ストックマネジメント計画の変更	13.45	17.08	20.80	
<p>・布設年度の古い陶管を優先対象として約8.58kmの点検を実施し、管きよの全延長に対する点検率は20.80%となりました。</p>					<p>管内状況(破損A)</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和6年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	番号	
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・8.58kmの点検を実施し、計画通り管路における異常の有無を確認することができました。	—
	課題等	<p>・ストックマネジメント事業全般において、国費等の財源を確保する必要があります。          ・異常が確認された箇所は詳細調査を実施し、対策が必要な箇所は改築・修繕を行う必要があります。</p>			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	・ストックマネジメント計画に基づき、布設年度の古い陶管を優先対象とし、年間約8.5kmの点検を実施します。